

第1回就学前教育・保育の質の向上推進委員会 議事録

日 時：令和元年6月3日(月) 13:30～15:30
場 所：西脇市生涯まちづくりセンター2階 第1会議室
出席者：3名（瀧川委員、鈴木委員、閑念委員）
欠席者：2名（松尾委員、古家委員）
事務局：6名（教育長、教育部長、幼保連携課長、幼保連携
課主査、幼児教育センター教諭、学校教育課
教育研究室主査）

1 開 会 ※進行事務局

＜事務局＞

西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会条例第7
条第2項に規定する過半数の出席のため会議成立する旨
を説明

2 委嘱状の交付

資料の確認

＜事務局＞

- ・議事次第、委員名簿
- ・西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会条例
（資料1）
- ・西脇市就学前推進事業 自己評価（案）
- ・事業スケジュール（資料2）

3 教育長あいさつ

4 委員紹介

5 概要説明

＜事務局＞

資料1を用いて会議の運営等について説明

6 協 議

委員長・副委員長の選出

＜事務局＞

条例第6条第2項説明し、互選により委員長、副委員長選出

委員長：瀧川光治氏、副委員長：鈴木正敏氏

7 議 事

※委員長による挨拶・議事進行

(1) 西脇市就学前教育推進事業について

＜事務局＞

「西脇市就学前教育推進事業・自己評価」（以下、自己評価）について説明

自己評価内容

(1)教育課程の編成

(2)教育・保育内容（0歳児から5歳児）

※「西脇市共通就学前教育・保育カリキュラム（以下カリキュラム）」を活用し作成

(3)安全管理・防災教育

(4)家庭・地域との連携

(5)職員の資質の向上

(6)特別支援教育

(7)保幼小の連携

(8)関係者評価の取組み

＜委員長＞

(1)自己評価について

(2)自己評価書き方説明会について

6/3と6/6に市内の就学前教育・保育施設（認定こども園、幼稚園）の保育者に向けて説明会を行う。
説明会資料「『保育に活かす自己評価』という考え方」について

①「評価」の捉え方について

・自己評価を通して改善のサイクルを行い、保育実践の質を向上していく。

・自分たちの園の良さ、強みを自覚することで改善の方向を見出していく。

②自己評価の流れと改善の手立てについて

(1)【6月から8月頃】1回目の自己評価

(2)【9月以降】1回目の訪問。委員からの助言

(3)【訪問後】日々の保育に生かす。（良さや強みは継続。改善していくことは、意識して取り組む）

(4) 【1月頃まで】2回目の自己評価

(5) 【1月から2月】2回目の訪問。委員から助言

(6) 【2月末】次年度に向けての評価

年度途中に自己評価を行い、2回訪問・助言を行うことで、各園の資質が向上していくのではないかと考えている。

③ 自己評価の書き方について

・子どもに対する評価ではない。保育者が自分自身の保育（関わり、環境構成、遊びや活動等）の内容に対する評価を行う。

・自分の保育の中で大切にしていることや意識していることを振り返る。

・自分の保育の中で日々の積み重ねや継続して取り組んでいることを捉えて、評価する。

④ 評価の付け方について

(1) A、B、C、Dの判断についての基準は、基本は回数や頻度。詳しくは、以下の通り。

評価 A … 十分できている。ほぼ毎日のように、継続的・日常的に実施。

評価 B … おおむねできている。Aほどではないが1週間に3回（半分以上）は実施。

評価 C … やや不十分。1週間に1～2回の実施。

評価 D … 実施していない。あるいは数か月に1～2回の実施。

(2) 今年度のやり方としては、自分の保育と各園の保育の強みや良さを考えられるよう、AもしくはBを付けられるものを『実施状況』に記入する。その中でベスト3を選び、その理由を『取組の状況』に記入できるようにと考えている。また、前期（第1回）よりも後期（第2回）にA・Bの評価が増えることが理想と考えている。ここまで説明してきたことについて、考え方について、率直な意見を聞きたい。

< 教育長 >

自己評価の付け方について、各項目の実施状況を、実際の頻度を目安に A, B, C, D で評価するので分かりやすいし、とりかかりやすいように感じた。

< 委員長 >

そうですね。それも一つのねらいです。また、「何を評価するのか」「何のために評価するのか」という目的を明確にすることも大切だと考えています。そのために、本日と6日に行われる『自己評価書き方説明会（以下、書き方説明会）』で各園の教職員の方々の理解を得ることが必要になってきます。

< 委員 >

『書き方説明会』の参加者の状況は、どうですか？

< 事務局 >

市内こども園・幼稚園の園長や主任、保育教諭を合わせて、80名ほど参加されます。こども園長会で数回説明や意見をいただき進めていますが、実際主任先生・保育担任の方は、「自己評価って何だろう。」という不安が大きいと思います。

< 委員長 >

その不安を少なくできるように説明できるといいですね。自己評価の項目は、各園の全体的な計画、教育・保育課程を活かしていこうという趣旨で、カリキュラムに基づき作成しました。実際にカリキュラムから評価していく難しさがあるのですが、活用するという視点を考えた時に、カリキュラムの「心情」「意欲」「態度」の中の「意欲」の部分をつまえ、子どもが主体的にしていこうとすることに対して、どのような関わりや、環境の工夫をしているか考えることが評価しやすいと考えます。カリキュラムは『子ども視点』で書いているが、自己評価は『先生目線・教師の支援のあり方』について書いています。

< 委員 >

この自己評価の教育・保育内容部分は、誰が書くのか？

< 事務局 >

各年齢の教育・保育内容の部分は、担任が書くことになるだろう。こども園長会では、新任の保育士や書く人によって、評価が変わってくるという不安も出ていました。

< 委員 >

確かに、書く人によって書きぶりが変わってくるが、自己評価は園や個人によって差があるから、そこを各

園の主任や園長と協議し、また、委員の方々に助言して、合わせていければよいのではないか。

< 委員長 >

この自己評価は、年度末にまとめ、公表をしますか。

< 事務局 >

そう考えています。

< 委員長 >

公表の仕方について、どういうやり方がよいでしょうか？せっかく2回訪問を行うので、各園の頑張っている所を評価していきたいと考えますが…。

< 委員 >

私も、同意見です。頑張っている所を多く、これからの課題や次年度に向けてを少しずつしていったらいい。

< 事務局 >

第1回訪問が終わり、第2回委員会の時に、より具体的に相談できればと思います。

< 委員長 >

議事(2)の委員会スケジュール、(3)の訪問事業について説明をお願いします。

(2) 年間スケジュールについて

< 事務局 >

資料2に基づいて説明

- ・ 委員会・・・第1回 6月3日
 第2回 11月11日
 第3回 2月28日
- ・ 園訪問・・・前期 9月2日～9月25日
 後期 1月15日～2月10日

(3) 訪問事業について

< 事務局 >

訪問事業について説明

< 委員長 >

訪問した際に、可能なら講評の時に各クラスの担任から悩んでいるところ等も出してもらえればと思います。

< 事務局 >

各園に問い合わせてみて、主担任の面談への参加を確認します。

< 委員長 >

担任の悩んでいることを元に何を伝えるかというところのすり合わせが必要かと思います。他市の訪問はどうですか？

< 委員 >

訪問に行った時は、環境や気になる子については、担任の先生が入れかわって個別指導で。園長先生は評価機関と全体の話をしていることが多いです。主任は一緒にいてもらって、担任の先生が順番に来るパターンです。

< 委員長 >

講評という時間帯をどう活かしていくか、各園の思いやニーズがあるだろうし、一方で各園の困っていることもあるだろう。

< 委員 >

それを事前にいただくことは可能ですか。北はりま特別支援学校では『後に個別でご相談ください』ということもできるかと思います。そういう対応ができると知らない方も多いので、どうですか。

< 委員長 >

今回は市のカリキュラムから作っていますが、本来であれば各園で、自分たちの保育を改善していくサイクルが回るようになっていくことが、本当は各園の保育の質が向上していくことだと思う。そのように結びついていくような形で助言できればいいのではないかと思います。そうすると、講評の時間の使い方が、現場の先生の悩みごと等を受け止めながら、その場で即興的に答えられることと、長期間一緒に考えましょうということがあると思います。また、支援の必要なお子さん等は北はりま特別支援学校さんと繋いでいければ良いかと思います。

< 委員 >

頑張っていることと聞きたいことを書いてもらって、聞きたいことに関しては相談会という形で。

< 委員 >

箇条書きにしてもらってもいいと思います。

< 委員長 >

そうですね。

< 事務局 >

園によって、学年に3クラス等ありますが、担任全員

来てもらいますか？

< 委員 >

他市では担任全員来ています。

< 事務局 >

少しの時間でも主任に交代してもらうなどして出てきてもらうとか。

< 事務局 >

遊戯室など別の部屋に行ってしまうのは無理でも、各部屋でなら、特に0、1歳はできるのではないか。

< 委員 >

0、1歳は環境のことになるので、その場で構いません。

< 事務局 >

先生方が聞きたい事、悩んでいることを事前に提出していただいて、それを委員の方々に見ていただいて話をしてもらうのが大事ですね。

< 委員 >

提出は、同時でも当日でもよい。様式は自由で、箇条書きでも文章でもよい。クラスごとがいいです。ただ時間が限られているので全部答えられるかは分かりません。

< 事務局 >

0～5歳児で、1学年10分とると1時間になるので、9時から9時半の園長からの指導方針の説明の時に、教育課程の編成から安全、家庭等園としての評価を済ませたほうがよいか。

< 委員 >

そうですね。後は園内参観で臨機応変に。

< 事務局 >

事前に特別支援で見えていただきたい子のクラスがあれば、そのクラスを重点的に見ていただき、担任と話していただきたいと思いますが。

< 委員 >

その場で知らせてもらえれば、そこを中心に見ますし、気になるお子さんの場合は、その場でこちらからお伺いしたいことも出てくるかもしれません。

< 教育長 >

4、5歳の場合、教育的な観点から社会生活における望ましい習慣や態度等、物の性質や数量、文字等そうい

う観点が入ってくると思います。市議や保護者の中で「幼稚園ではこうだったがこども園は十分なのか」というのが強いように感じる。議員が入園式や卒園式に関わることがあり、担任等は、教育の部分に感心が高くなっているのではと気にしているのではないかと思う。それが評価にどう映るかは分からないが、0歳から5歳の段階で教育と保育の質の部分はどうか。

<委員長>

4、5歳の先生が記載しているところに重点を置き、どこにチェックしているか、チェックしていない所はどう意識しているか確認する。まずできている所を尊重して認め、それ以外の部分を今後どう取り組んでいくと良いか。今回、これ自体が今の幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が入っているわけではないので10の姿と結び付けてこちら意識しておかないといけないと思います。

<委員>

小学校がどこまで意識されているかにもよります。

<事務局>

カリキュラムで、育てたい力等の方向性が見えてくるので、市内のこども園、幼稚園もそれに向かって様々な取り組みをし、子ども理解が深まると思います。小学校との接続で、小学校でどんな支援をしているのか、こども園はどんなことをしてきて4月を迎えるのかという情報が極めて少ないという課題がある。このカリキュラムの方向性で保育をすると、取り組みも充実し子ども理解も深まる、それは小学校との接続においても効果的に働くと思う。

<委員>

教育といっても、上から教えるタイプをイメージしているのか、それとも探求的な思考力、判断力、表現力をイメージしているのかによって、やり方も違えば、質の方向性も変わってくるので、それが一致しないと。幼稚園、こども園で思考力、判断力を育てても、小学校に行くと『言う通りにしましょう』というようになり、いつも困ります。

<事務局>

集団の中で学習規律を教えていかなければならない所があるのは事実ですが、思考力・判断力を育むことは

大事だと思います。

< 委員 >

指導要領で思考力、判断力と言われているので下の方はシフトしているが、小学校に行くと全部型にはめられるところがあるので、難しい部分です。

< 委員長 >

4月から教科書が変わりますが、そこで1年生から主体的、対話的に深い学びをどう進めていくか一度1年生側でしっかり考えてほしい。「ぴしっとしておきなさい」「話してはいけません」ではなくて、班で話し合うということを1年生の初期段階からいかにしていくか、資質・能力をどのように育てていくかを考える。幼児期でも同じ資質・能力を育てる境遇になっているので、その辺でうまく接続できればと。

< 委員 >

教師が入らなくても、自分たちで自立的に相談、探求して記録することができるようになります。そこまでしている子どもが多々いる中で、小学校に行くとしなくなるのがジレンマです。主体的に進めれば進めるほど子ども達が苦しむようなことになってしまってどうしようかと。幼稚園やこども園に1～2年行くと、自分たちで相談して進めて、先生は見ていただけという状態になるが、1年生になると、いわゆる赤ちゃん扱いであまり自由がなく、思考停止が一番楽になってしまうのを何とかしたいと思っている。小学校の先生によって、考えさせてくれる人と規律重視の人がいるので、どちらに入るかで子ども達の運命が変わるようなところがある。全体として、本当にやってきたことを受けて1年生を始めてくださればいいが。

< 教育長 >

その部分が公的な学校は研究されていない。この評価で、子ども達をどう育ててきていただいて、それを受けてどうするかというところを話さなければならない。認定こども園は民間です。そして小学校は公立になり学習指導要領の中で進めていく、そのつなぎをうまく行うのが今回の大事なところだと思う。

< 委員 >

民間は、主体的にというと、先生なしで5歳がみんな iPad を使って撮影し、バトンプスのフォームをチェ

ックするという例もあるくらいです。

<教育長>

どこまでできるか分からないが、カリキュラムをそれぞれ行いながら共有するところは西脇方式というような形で一つの教育・保育のパターンが作れるのではないかと思う。

<委員>

外部の先生や校長先生も入っているのは西脇の良いところだと思う。義務教育の方がきちんと見てくれているのが他の第三者評価と違うところ。こういう場なら深いところで話ができると思います。

<教育長>

現場にそった考え方、やり方で先生方が膨らませていただいている安心感の中で民と官が合致できないかという思いです。

<委員>

校長先生もそうですが、新1年生の担任になる方がどんな形で決まり、どういう考え方で行うかまでつながっていくといいかと思う。

<事務局>

就学前の取り組みをまず知ることが大事だと思う。

<委員>

1日遊んでいるけど実はこんなことをしていると。

<事務局>

小学校が幼児教育をよく知ることによってスムーズな接続になる。以前在籍していた小学校のすぐ横に幼稚園があり、小学校1年生と園児の交流が盛んでした。園がどんな内容をどんなねらいでしているかを理解できていたので、その子たちが1年生に上がった時に、先程話されたようなことはしませんでした。園がカリキュラムを作成し教育・保育を行っていることを小学校がもっと知っていくことが一つの改善策になるのではないかと思う。

<事務局>

併設だからこそできていたことですね。

<委員>

離れてしまった環境はどうしようもない。その接続を自力で接続しなければならない。

<教育長>

このカリキュラムは分かりやすくてよくまとまっていると思う。学校教師も校長はもちろん職員が知らなければならぬ。どんな形でするにしろ1年生、低学年がポイントだ。

<事務局>

実際公立幼稚園で幼・小交流していた回数と、こども園になってから行き来した回数は減っているのだからこども園の先生からは特別支援等増やしてほしい、見に来てほしいという声は昨年幼児教育センターで各園を訪問した時にありました。一人でも学校の先生が来られる場があればいいと思いますが、今のところお互いが知らなくて不安というところがあります。

10の姿も、思考力、学力というところでは、市内のこども園では29年度に英語教育などを取り入れられているところが多い。

<委員>

つい教育していますという方に走ってしまいがちですね。

<事務局>

全て悪いわけではないのですが。

<委員>

必要な子もいる。

<委員長>

私たちが入っていく中で別の選択肢もあり得るということ、視野を広げてもらうきっかけになればいいと思う。これまで公立幼稚園が大事にしてきた協同性をいかに育むか（プログラムに沿ってはなかなか育まれにくいので）年長あたりの話の中で少しずつ話し、1回目はピンと来ないかもしれないが2回目に向けての話等が出てくるかもしれないと思う。そうすると市民の方々にも公立幼稚園で大事にしていたことが民間認定こども園でも大事にしてもらえていると伝わるのではないのでしょうか。

<教育長>

幸いなことに西脇市はコンパクトで、行きやすい。

<事務局>

第2回の委員会をどういう形で行うかお聞きしたいです。

<委員>

第2回は状況説明ですね。

<委員長>

園訪問してみてどうだったかを話し合います。

<委員>

頑張ったところと聞きたいことを書いてもらう。聞きたいことはラフな感じで、現場や別室で話を聞くというのが1回目の一番大事なところ。

<委員長>

そうですね。評価されるのは怖い、やらされるのではなく意味があることだと。

<委員>

相談会ですから。

<教育長>

分かりやすくていいですね。

<委員>

評価という感じではないですね。

<事務局>

この委員会を立ち上げるにあたり、文教民生常任委員会で質問がありました。この委員会は保護者の声や意見を吸い上げる方法はあるのか、保護者が委員会に声や意見を届ける方法はないのかというものです。

<委員>

三木市では自己評価の時にアンケートをします。それが直接こちらに来るようになっています。チェックするのと自由記述が多くあり、保護者が変えて欲しい部分を書いていたたり、辛辣な意見や肯定的な意見等様々ですが、セットで行います。園の先生方も見ますがアンケートのあて先が評価委員会なので書きやすいようです。検討してもいいと思います。

<事務局>

タイミングは？

<委員>

自己評価とセットできます。管理職のアンケート、保育者のアンケート、保護者のアンケートで、全部点数で平均点が出てきて、そのうえで自由記述があります。それを見てから訪問するので参考になります。管理職はどこに自信を持っていてどこが不安なのか、保護者はどんなところが満足で不満か等全部ピースがそろってから環境を見て納得します。

<事務局>

当初は考えておらずもし保護者からの意見があれば、例えば委員会に質問状や意見書を委員会あてに出してもらえば事務局が届けますという回答をしました。もし意見が出た場合は委員会で協議いただくということについてご了承いただけますか。

————— 異議なしのうなずきあり —————

<事務局>

先生が言われるように保護者全体にするのは。1回目の指導訪問に間に合えばよいが、無理なら2回目の時に。自由記述の方が色々な意見が出るのではないか。

<委員>

アンケート項目は『お子さんは楽しんで通ってらっしゃいますか？』等、書きやすく、1枚を超えないくらいがいいと思います。

<委員長>

保護者アンケートを書いてもらう部分と、一般的な市民の方から子どもに関わることとしての意見や要望は、議員さんが質問されているところは両方あるのではとの印象をもちました。

<事務局>

現在、認定こども園と幼稚園に通う保護者の代表が議員さんに話を聞いてほしいというところからスタートしているようです。

<委員>

色々考えられているのでしょうか。とにかく『ニコニコ通っているからいい』という保護者もいるし。全体の意見と意識ある方の意見とバランスをとってアンケートをとれば良いかと思う。

<事務局>

1回目はこれでいかせていただいて、2回目の委員会の時にある程度調整し、必要であればその段階でアンケートをして次の訪問に活かせれば。

<委員長>

ただ、保護者アンケートをするとしたら、こども園に了解を得る必要がありますね。

<委員>

アンケートをとる時期としては、2学期の中間で大きな行事が終わって落ち着いた頃がいいのではないか

と 考 え ま す。

< 委 員 長 >

それでは、議事を閉めて事務局に返します。

< 事 務 局 >

委員の皆さん本日はありがとうございました。

8 その他

< 事 務 局 （ 課 長 ） >

今後の予定及び次回会議日程の説明

9 閉会

教育部長あいさつ